

I 大田区のプロフィールをお知らせします

～ まちのマネジメント・メッセージ ～

大田区は「羽田空港と田園調布があるまち」といえばイメージがわくでしょう。東京都の東南部にあり、東は東京湾に面し、西と南は多摩川を挟んで神奈川県川崎市に隣接しています。西北部の丘陵地帯に田園調布・雪谷・久が原などの比較的緑豊かな住宅地があり、低地部には住宅や工場、商店が密集する商業・工業地帯が形成され、「東京の縮図」ともいえるまちなみとなっています。

大森ふるさとの浜辺公園



田園調布駅

区は、社会経済状況の変化に対応するため、平成 20 年 10 月に四半世紀ぶりに大田区基本構想※1 を制定し、20 年後の区の将来像を「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」と掲げました。平成 21 年 3 月には、基本計画である「おおた未来プラン 10 年」（以下「未来プラン」という。）を策定し、「地域力」「国際都市」をキーワードに、平成 21 年度から着実に計画を推進しています。

地域は、区民の力で支えられています。人やまちへの思いやりの心と行動力が「地域力」として発揮され、人と地球に優しいまちの創造が進みます。

大田区には 18 の特別出張所があり、ここを地域力の拠点として、自治会・町会、事業者や NPO などの区民活動団体と連携・協働し、防犯・防災、子育て、高齢者の見守りなどの活動に取り組んでいます。区民の皆さまにもっとも身近な基礎自治体として、地域特性を生かした施策を展開するため、18 色の地域力が絶えず光り輝いている姿をめざします。区は平成 21 年度から「地域力応援基金助成事業」を開始し、福祉・環境・まちづくりなどの分野で、公共性が高く、社会貢献につながる活動に助成し、さらに、区民活動支援施設「こらぼ大森」「mics（ミックス）おおた」を設置するなど地域力の支援を進めています。今後、少子高齢化がますます進みます。高齢者や子どもたちの生活の場は地域が中心であることから、区民活動団体の果たすべき役割はますます大きなものとなります。

大田区は工業のまちです。ピーク時の約 9,000 事業所からは減少しているものの、現在も工場数は 4,000 を超え東京一を誇ります。区内工場の約 8 割は従業員数 10 人未満の事業所で、機械金属加工分野を始めとする高度な技術や優秀な金型などの製品は、日本の産業を支え続けています。区は、経営基盤の革新や新たな事業展開をめざす中小事業を引き続きバックアップしていきます。

大田区のお勧めスポットのひとつは温泉です。23 区で最も温泉施設が多く、黒湯は、すべすべした肌触りと特有の香りが特徴です。また、洗足池や馬込文士村、多摩川台古墳群などの史跡や文化財を有しています。

平成 22 年 10 月 21 日、羽田空港第 4 滑走路が供用開始となり、10 月



羽田空港国際化記念事業

31 日からは国際定期便が就航し、羽田空港は再拡張・国際化されました。空港を拠点として、多様な文化圏の方々との交流や物流が活発となり、商工業や観光産業などへの波及効果も期待されます。国際化をまちづくりの好機と捉え、「国際都市おおた」として世界に羽ばたくための様々な取り組みを進めます。



黒湯

○大田区命名の由来

昭和 22 年（1947 年）3 月 15 日に、当時の「大森区」と「蒲田区」が一緒になって誕生したのが大田区です。その際、一文字ずつを取って命名されました。

大田区の前身である大森・蒲田の両区は、ともに昭和 7 年 10 月に、当時の東京市へ隣接する郡町村が編入された際に設置されました。馬込、東調布、池上、入新井、大森の 5 つの町が大森区に、矢口、蒲田、六郷、羽田の 4 つの町が蒲田区になりました。

○大田区の歴史と沿革

海と川に臨み、昔から人が住みやすく、交通の要路でもあったため、区内には、多摩川台古墳群、池上本門寺五重塔など多くの史跡が点在しています。また、水止舞や禰宜（ねぎ）の舞などの伝統芸能も数多く残されています。

江戸期は農村、漁村で、特に海岸の大森・糀谷・羽田地区では海苔（のり）の養殖が盛んに行われました（昭和 38 年まで存続）。東海道の街道筋にあたっていたため、人馬の往来でにぎわいました。大正期以降、中小工場が進出し、低地部は住宅や工場が密集する商業・工業地域を形成し、京浜工業地帯の一部となっています。台地部は、関東大震災後、住宅化が進み、田園調布、雪谷、久が原などは比較的緑の多い住宅地です。臨海部は埋め立て地からなっており、空港をはじめトラックターミナルやコンテナ碼頭、市場など物流施設のほか、工場団地、野鳥公園など都市機能施設が整備されています。

○大田区の面積と地勢

区の面積は 59.46 平方キロメートルで、23 区で第 1 位です。

西北部の丘陵地帯と東南部の低地に 2 分され、丘陵地帯はいわゆる武蔵野台地の東南端にあたります。低地部は、海岸や多摩川の自然隆起と堆積によってできた沖積地と、それに続く埋め立て地からなっています。海拔は、田園調布付近が最高で 42.5 メートル、南東に向かって次第に低くなり、低地部の高いところで約 5 メートル、海岸線や埋め立て地では約 1 メートルです。



【用語解説】基本構想※1

急速な少子化や高齢社会の進行のほか羽田空港の国際化の動きなど、区を取り巻く環境は多岐にわたり大きく変化しました。区は、めざすべき姿を提示するため四半世紀ぶりに新たな基本構想制定に取組み、平成 20 年 10 月 14 日大田区議会で議決されました。基本構想は、20 年後の大田区のめざすべき将来像を「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」と掲げました。今後の大田区のまちづくりの方向性を明らかにした、区の最も基本となる考え方を示すものであり、区民と区政の共通の目標として、今後の区政運営の指針となるものです。

○区の紋章

区の紋章は“大”と“田”の2字を図案化、昭和27年に制定されました。デザインは、広く区民から公募し、1,429点の作品の中から選ばれたものです。



○平和のシンボルマーク

区は、恒久の平和を願って、昭和59年8月15日に平和都市宣言を行いました。戦争の悲惨さを再認識し、平和への思いを新たにするためのシンボルマークを昭和63年に制定しました。デザインは、区民からの公募により選ばれました。



○区の木「クスノキ」

昭和51年に区の木として制定されました。常緑の葉は陽光に美しく映え、成長が早く、そのたくましい樹形は風格ある高木となります。まさに発展する大田区を象徴する木といえます。



○区の花「ウメ」

クスノキと同様に昭和51年に区の花として制定されました。古くから区の土地なじみ、歴史的な由緒も深いウメ。花は清楚にして気品に満ち、早春、寒さに負けず咲くその姿は、若い世代が多い大田区には特にふさわしいものです。



○区の鳥「ウグイス」

梅の咲く早春を告げる鳥として昔から人々に親しまれており、独特の澄んださえずりは自然の尊さを感じさせます。区の自然保護のシンボルとして平成2年に制定されました。



○世帯と人口

	世帯数	人口総数	住民基本台帳人口			外国人登録人口
			男性	女性	計	
将来推計（平成40年）	403,976	702,794			665,082	37,712
将来推計（平成30年）	381,249	703,376			676,781	26,595
平成23年4月1日現在	347,864	694,414	339,941	336,067	676,008	18,406
平成18年4月1日現在	328,542	677,492	332,634	328,587	661,221	16,271
平成13年4月1日現在	306,205	655,685	323,055	318,281	641,336	14,349

区の組織図（平成23年4月1日）





